

【概要版】千代田町立千代田中学校等施設整備基本構想

令和6年10月 千代田町教育委員会

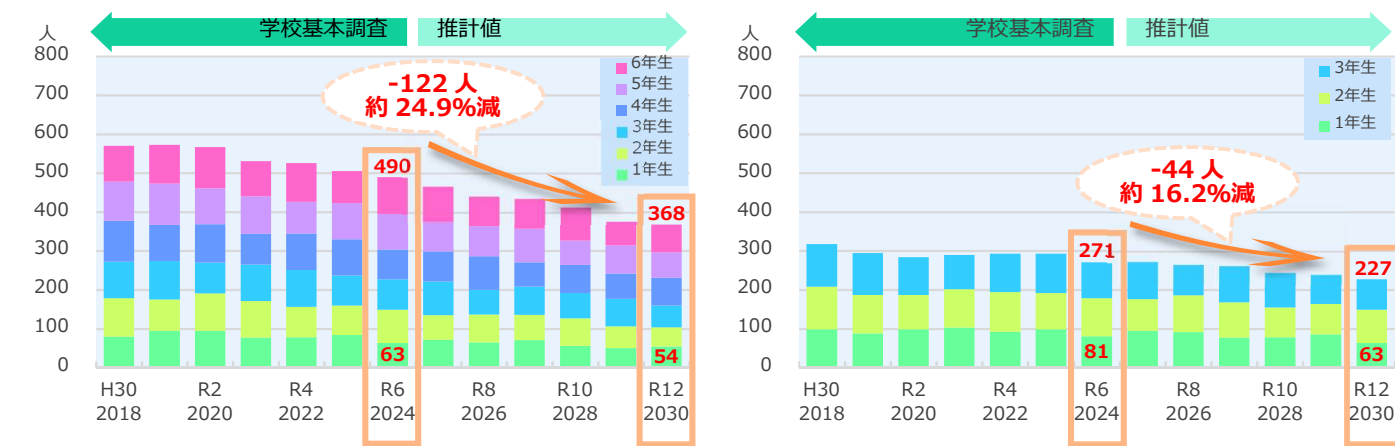
1 町内の小中学校の現状

1-1 人口及び児童生徒数の減少

町全体の人口減少が進み、ピーク時の11,758人（平成7（1995）年国勢調査）が令和2（2020）年国勢調査では10,861人、25年間で897人（約7.6%）減少しました。特に15歳未満の人口は昭和60（1985）年国勢調査の2,677人をピークに減少が進み、令和2（2020）年国勢調査で1,259人、35年間で1,418人（約53.0%）減少しています。

西小及び東小の児童数は、グラフ①のとおり令和12（2030）年度には-122人（約24.9%減※1年あたり平均20～21人減少）となる368人程度と予想され、特に小学校1年生は西小と東小あわせて54人程度、1学級30人以下（ニューノーマル GUNMA CLASS PJ）では2学級の規模に相当する可能性があります。

千代田中の生徒数は、グラフ②のとおり令和12（2030）年度には-44人（約16.2%減※1年あたり平均7～8人減少）となる227人程度と予想され、特に中学校1年生は63人程度、1学級35人以下では2学級の規模に相当する可能性があります。



グラフ① 児童数の減少（西小及び東小）

令和6（2024）年まで：学校基本調査（群馬の統計情報提供システム オープンデータサイト <https://toukei.pref.gunma.jp/gkt/>）
令和7（2025）年以降：千代田町住民基本台帳（令和6（2024）9月時点）

グラフ② 生徒数の減少（千代田中）

1-2 施設の現状

町内の小中学校校舎は15,306㎡あり、うち41年以上経過する校舎は10,200㎡（約66.7%）、各学校で劣化が進んでおり、児童生徒の安心安全な学校生活のために修繕等を行っていますが、劣化範囲が広い間合に合っていない。



千代田中

雨水の浸入が要因と思われる内部塗装剥離（写真左）、外壁塗装フクレ（写真右）が各所でみられる



西小 各所で雨漏り

東小 屋上シート防水はく離

	棟	延床面積	建築年	経過年数
千代田中				
校舎		3,463㎡	昭和42 昭和43	57年 56年
特別教室棟		389㎡	昭和43	56年
体育館		733㎡	昭和44	55年
武道館		565㎡	平成22	14年
レスリング場		167㎡	昭和62	37年
給食室		26㎡	平成23	13年
部室		184㎡	平成3	33年
西小				
校舎		2,779㎡	昭和54	45年
特別教室棟		2,402㎡	昭和60	39年
体育館		684㎡	昭和47	52年
東小				
校舎		1,503㎡	昭和49 昭和50	50年 49年
特別教室棟		1,712㎡	昭和59	38年
体育館		649㎡	昭和47	52年
生活科教室		50㎡	平成7	29年

児童生徒数減少と施設老朽化が進む中、千代田町に育ち、千代田町の将来を支える子どもたちの学びの場を守ることを最優先に、地域の防災、多世代交流、省エネルギーなど、これからの千代田町としてあるべき学校の姿とは？

2 これからの千代田町としてあるべき学校の姿の実現のために

2-1 今後の方針を検討するうえで考慮すべきこと

- 千代田町に育つ子どもたちにとって安心安全に通学し、これからの時代に合わせた教育が実現できる
- 地域の避難所・避難場所としての施設機能を確保できる
- 工事期間中であっても、学習・生活環境の質を維持できる
- 工事を計画する場合は、将来負担をなるべく増やさないために、初期投資額だけではなく将来的な運用費用等も見据える

2-2 施設整備の方針

児童・生徒数の減少について

児童・生徒数の減少は、少人数教育が可能になるという良い点と、少子化が進んだ学校では、集団で実施する学びや活動の機会（運動会、クラブ・部活動 など）が成立しにくくなり、子どもたちの学び・体験の機会は減ってしまうという課題点があります。

町内の児童・生徒数の減少が著しい中で、「少人数教育の良いところ」があって「集団で行う学びや活動の機会」も得られるような、千代田町に適した学校のあり方を実現できるよう、千代田町にある3小中学校すべてを対象とし、小中一貫校を視野に入れた検討を行います。

各学校（千代田中学校、西小学校、東小学校）の老朽化について

千代田中、西小、東小それぞれ老朽化が進んでいます。長寿命化工事で80年使うことも可能といわれますが、子どもたちが学校を使いながら、各校舎を1年以上かけて、莫大な費用を投じて工事をするのはあまり現実的ではなく、可能な限り仮設校舎を使用した学習環境にならないように工事等を行いたいと考えます。

各学校の老朽化が進む中で、「今の子どもたちの学習環境」を守りながら「これからの千代田町の学校教育」が実現できるような、町の将来を支える世代の小中一貫校のあり方を検討します。

既存施設の有効活用による費用面への配慮について

可能な限り既存施設を有効活用できる学校用地は、敷地にゆとりがあり、築14年の武道館があり、町の中心地に位置するという、立地にも恵まれた千代田中が候補地のひとつに挙げられると考えています。千代田中敷地を活用する場合、敷地内の既存施設は、建設時及び運用面の費用を確認しながら、有効活用すべき施設は継続して利用していくなど、費用面へも検討します。

学校の安全対策と学習環境の課題について

小中一貫校を検討するうえで、重要となるものの1つは、学校に通学する児童・生徒の安全対策です。小中一貫校になると、通学路や通学距離が変わりますし、出入りする人も変化します。通学する児童・生徒の安全性を最重点課題としながら、千代田町に適した学校の姿となるように検討します。

もう1つは、児童生徒の学習環境です。2小学校が1小学校になることで小学校1年生から6年生の児童は一緒に学ぶクラスメイトが増え、環境の変化に戸惑う場面もあるかと思えますし、小学生と中学生が同一敷地内で学校生活を送ると、授業時間の違いや定期試験の有無など、カリキュラムの違いも生じます。町や教員のサポートはもちろん、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと地域ぐるみの支援はもちろん、施設面からの対策として、小学校と中学校の教室は別棟とするなど、校舎の配置計画への配慮を検討します。

子どもたちや千代田町民の皆様と考える千代田町に適した学校について

これからの千代田町としてあるべき学校の姿の実現のためには、各学校に通学する子どもたちやその保護者の皆様、千代田町に住む町民の皆様のご理解やご意見が重要となります。皆様のご意見を賜りながら、より良い学校の姿を実現するために、定期的な情報発信や説明の場を設けて、町民の皆様とともに児童生徒が誇れる千代田町の学校をつくりあげたいと考えています。